

# 元日本代表の出版社社長が語る ラグビーと経営のシナジー



Interview

山川出版社 代表取締役社長／一般財団法人スポーツを止めるな 代表理事／元ラグビー日本代表

のざわ たけし

## 野澤 武史さん

プロフィール：1979年、東京都生まれ。慶應義塾幼稚舎でラグビーを始め、慶應義塾高校時代には主将として全国大会ベスト8進出に貢献。慶應義塾大学でも主将を務め、日本代表に選ばれる。2002年に神戸製鋼コベルコスティーラーズ（現コベルコ神戸スティーラーズ）に加入。2009年に現役を引退し、母校・慶應義塾高校ラグビー部のコーチを2年、慶應義塾大学ラグビー部のヘッドコーチを2年務めた。その後、祖父が創業し、父が社長を務める山川出版社に入社、2018年に代表取締役社長に就任。社長業の傍ら、コーチとして全国各地での指導や、日本ラグビーフットボール協会のユース戦略TIDマネージャーとして高校生世代の育成に取り組む。2020年には「一般社団法人スポーツを止めるな」を設立し、代表理事に就任。

【取材・文】 勝田 慶 中小企業診断士 【写真提供】 安岡 嘉

Interview >>> Takeshi Nozawa

### — The prologue

9～10月のラグビーワールドカップ・フランス大会で、世界の強豪相手に奮闘した日本代表。その日本ラグビーの将来を担う高校生世代の育成と、全国各地の才能の発掘に取り組んでいるのが、自身もかつて日本代表としてプレーした野澤武史氏である。

そして、野澤氏のもう一つの顔が、歴史教科書を数多く出版する老舗、山川出版社の代表取締役社長。創業家の3代目として事業承継し、経営というフィールドでも活躍している野澤氏に、企業経営・人材育成に取り組むうえで大切にすべき「人」と「現場」について語ってもらった。



### 現場の「声」を次のアクションに

—現在の主な活動について教えてください。

現在の主な活動は3つです。

1つ目は、山川出版社の代表です。祖父が創業した教科書・教材を中心とした出版社で、年に約400校の高校を訪問し、出版物の営業とニーズのヒアリングをしながら、経営者として戦略を立案・実行しています。

2つ目が、高校世代のラグビー選手の発掘・育成です。依頼を受けた高校での指導や、日本ラグビーフットボール協会のユース戦略TID (Talent Identification and Development) マネージャーとして、全国各地でポテンシャルの高い選手の発掘・育成や、指導者への指導をしています。

3つ目が「スポーツを止めるな」での活動です。2020年3月に、コロナ禍で活動の機会を失った

高校生に何かできることはないかと思い、プレー動画を作成してSNSに投稿すると有名選手や大学関係者に見てもらって進学のチャンスにつなげる、という取り組みを始めました。そして、その活動をラグビー以外のスポーツも含めて継続するために、一般社団法人「スポーツを止めるな」を立ち上げました。現在は「1252project」という女性アスリートが抱える生理とスポーツの課題に関する情報発信活動や、「青春の宝」という学校から提供された試合映像にトップ選手たちの実況・解説をつけてプレゼントする企画などを中心に活動しています。

—それぞれの活動の共通点はありますか。

本業の出版社でもラグビー関連の活動でも、「高校とのかかわり」に軸があると最近、気がつきました。母校の慶應義塾高校ではラグビーの監督が教員ではなく、平日の練習メニューや試合のメンバーを僕たち選手主体で考えさせてもらえました。みんなでいろいろと考えながらチームを作っていくことが本当に楽しかった。しかし、全国を回って話を聞いていると、それは当たり前なことではないと気がつきました。そのため、一人でも多くの高校生たちにとって、部活動を通じて3年間がより良いものになるようなサポートができればと考え、日々活動しています。

また、現場の声を大事にして活動していること